

ESD-J 会員のみなさま

国連気候変動枠組条約(UNFCCC)第 28 回締約国会議(COP28)は、予定通りには終了しませんでした。23 時間遅れで 12 月 13 日午後 5 時 11 分に閉会しました。この数時間が成功の鍵を握る上で大きな違いを生んだと言われているようです。

締約国は、1.5° C 経路に沿った温室効果ガス(GHG)排出量の深幅、迅速、持続的な削減の必要性を認識するパリ協定の下での第 1 回グローバルストックテイクに関する決定を採択しました。この決定は、締約国に対し、全ての GHG、部門、カテゴリーを対象とし、地球温暖化を 1.5° C に抑えることと整合する、野心的な経済全体の排出削減目標を掲げ、次回の国が決定する貢献(NDCs)で表明することを奨励しています。

この決定は、締約国に対して特に、国が決定する形で、以下の項目に関する世界的な努力に貢献するよう求めています。

- ・ 2030 年までに、再生可能エネルギー容量を世界全体で 3 倍にし、エネルギー効率改善率を世界平均で 2 倍にする。
- ・ 排出削減対策が講じられていない石炭火力発電の段階的削減に向けた取り組みを加速する。
- ・ 今世紀半ばのかなり前または今世紀半ばまでに、ゼロ・カーボン燃料及び低炭素燃料の利用によるネット・ゼロ・エミッション・エネルギー・システムに向けた取り組みを世界的に加速する。
- ・ エネルギーシステムにおける化石燃料からの脱却を、公正、秩序ある、公平な方法で行い、科学に沿って 2050 年までにネットゼロを達成するために、この重要な 10 年間における行動を加速する。
- ・ 特に、再生可能エネルギー、原子力、特に削減が困難な部門における炭素の回収・利用・貯留などの削減・除去技術、低炭素水素製造を含む、ゼロ・低排出技術を加速する。

・ 2030 年までに、特にメタン排出量を含む、二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出量対策を世界規模で加速し、大幅に削減する。

・ インフラの整備やゼロ・低排出ガス車の迅速な展開などを通じて、様々な経路における道路輸送からの排出量削減を加速する。

・ エネルギー貧困や単なる移行に対処しない非効率な化石燃料補助金をできるだけ早期に、段階的に廃止する。

多くの参加者は、化石燃料の段階的廃止への明確な言及の欠如、石炭及びメタンに関する弱い表現、いわゆるトランジショナル燃料に関連するリスクを非難し、決定は「エネルギー安全保障を確保しつつ、エネルギー転換を促進する役割を果たすことができる」と述べている。他の参加者は、これらの特定の世界的な努力への言及は規範的すぎるとし、パリ協定のボトムアップで国が決定する性質を強調し多様です。

締約国は、また、適応に関する世界目標の枠組を採択し、公正な移行経路に関する作業計画(work programme on just transition pathways)の実施の開始、その他の多数の決定を採択しました。

閉会式のスピーチで、アル・ジャーベル議長は、この成果を「多国間主義の勝利」であり、連帯と協力の証であると歓迎しました。同議長は、この会議を 1.5° C を再び手の届く位置に戻す「歴史的な転換点(historic turning point)」とその成果を述べています。<https://unfccc.int/cop28>

ロス&ダメージ基金 <https://unfccc.int/cop28> の実施方針の合意という輝かしい成果で始まった COP28 ですが、全体的成果をどう評価するかは難しい面があると思います。

とりあえずの速報ですので、第 1 回グローバルストックテイクに関する決定等の資料は後ほどお伝えします。

(仮訳・解説：ESD-J 理事 鈴木克徳)